

《原 著》

## 1 回測定による有効半減期推定法を用いたバセドウ病の 甲状腺重量別 $^{131}\text{I}$ 治療成績

五味由加利\*      渡辺 正好\*\*      吉村 弘\*\*      石川 直文\*\*  
百溪 尚子\*\*      伊藤 公一\*\*      井上 健\*      伊藤 國彦\*\*  
鈴木 晟時\*

\* 昭和大学藤が丘病院内科内分泌代謝科  
\*\* 伊藤病院

要旨 バセドウ病の甲状腺重量別  $^{131}\text{I}$  治療において、伊藤病院では 1 回の測定により有効半減期 (EHL) を推定する方法 (INDEX 法) を見だし、従来の、数回の測定により EHL を求める方法 (通常法) と並行して、主に外来患者の治療に用いてきた。この INDEX 法と通常法とで、バセドウ病の甲状腺重量別  $^{131}\text{I}$  治療を外来で受けた患者の治療 5 年目の成績を比較検討した。治療成績の評価は、治療後の甲状腺機能を低下、潜在性低下、正常、潜在性亢進、亢進に分類して行った。その結果、2 方法でいずれの発生頻度にも有意差は認めなかった。

INDEX 法は、数回の測定により EHL を求める通常法の半分の通院日数で、それと同等の治療成績を上げることができ、優れた方法と思われた。

(核医学 37: 109-114, 2000)